

ATC 施設利用・共同開発研究 成果報告書

国立天文台先端技術センター センター長 野口卓 殿

平成30年2月28日

下記のとおり施設利用の成果を報告します。

ふりがな： あきたや ひろし 代表者氏名： 秋田谷 洋	③所属機関，部局： 埼玉大学 大学院理工学研究科
研究課題名：可視赤外線同時撮像装置 HONIR の開発	
利用期間：H29年 4月 1日 ～ H30年 3月31日	
利用者リスト	
研究開発の成果（ATC 施設利用との関連を具体的に記述してください。） 今年度は、主に望遠鏡にて取得したデータ解析・性能評価を重視したことから、本課題による ATC 利用はなかった。 来年度、課題を継続し、高分散偏光分光機能搭載(秋田谷科研費課題)ほかの推進のため、ATC オプトショップ、エレキショップの諸施設の利用を予定している。	
施設利用が謝辞等に記された学術論文など（資料を添付してください。） ・長木舞子（広島大学）ほか、「可視近赤外線同時カメラ HONIR における一露出型偏光観測モードの性能評価」、日本天文学会 2017 年秋季年会、V251b ・秋田谷洋（埼玉大）ほか、「かなた望遠鏡可視近赤外線カメラ HONIR への分解能を高めた偏光分光機能搭載の計画」、第 7 回 可視赤外線観測装置技術ワークショップ、京都大学、2017/11 ・森裕樹（広島大学）ほか、「広島大学 HONIR の 3 色同時観測に向けた研究」、同上	
先端技術センターの利用設備・実験室等の利用した物品を具体的に記入してください。マシンショップへ依頼したリスト・利用した測定器・CAD 等について記入してください。）	
先端技術センターの施設への要望等ありましたら、記入してください。 例年と同様の意見となるが、ATC オプトショップでは、魅力的な測定機器群が常に適切に管理・整備されている。いつでもそれらの機器を利用できる環境が整っていることは、地方大学で装置開発を進める上で大変心強い。今後も従来どおりの環境が維持されることを望む。	